

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京田辺駅前マンション新築工	階数	地上11階
建設地	京都府京田辺市田辺中央5丁目1番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	347 人
地域区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 0.0	評価の実施日	2016年4月15日
敷地面積	1,623 m ²	作成者	上西 賢
建築面積	877 m ²	確認日	2016年4月15日
延床面積	7,222 m ²	確認者	上西 賢

外観バース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 79%
③上記+②以外の 78%
④上記+ 78%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.5

音環境	3.3
温熱環境	3.4
光・視環境	3.2
空気環境	4.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5

機能性	4.4
耐用性	3.2
対応性	2.5

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.4

生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.0

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.0
効率的	3.5

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1

水資源	3.4
非再生材料の	2.6
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3

地球温暖化	3.8
地域環境	2.9
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項	その他
<p>総合</p> <p>分譲マンションとして、エネルギー消費の高効率化・長寿命化のための様々な取組みを行い、エンドユーザーにとっても住まうことに対するメリットが感じられる建物を目指した。</p>	0
<p>Q1 室内環境</p> <p>マンションとしての住環境への一般的な配慮の他、住戸部分において温熱環境の向上を図った配慮(住宅性能評価断熱等性能等級「4」を取得)を行っている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>住宅性能評価の構造躯体劣化対策等級「3」を取得する等、建物の耐久性に対する配慮を行っている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>住戸部分において、住宅性能評価の断熱等性能等級「4」の取得や、エコジョーズの採用、共用スペースでLED照明を全面的に採用する等、省エネルギー化に対する配慮を行っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>住戸部において節水型便器を採用する等、水資源に対する配慮を行っている。</p>
	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>落ち着きのある外観・色彩計画や、緑地帯を出来るだけ確保する等の対策を行っている。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>周辺環境に調和した植栽計画、照明計画を行っている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される